

令和3年度 第8回春日市教育委員会定例会 議事録

1 開会及び閉会に関する事項

① 日 時 令和3年11月19日(金)

開会 午前9時

閉会 午前10時35分

② 場 所 春日市役所大会議棟中会議室

2 出席委員の氏名

教 育 長	扇 弘 行
委 員	魚 屋 けい子
委 員	谷 康 浩
委 員	安 本 誠 一
委 員	染 原 レイ子

3 委員を除き会議に出席した者の職氏名

教 育 部 長	金 堂 円一郎
教 務 課 長	藤 井 謙一郎
学校教育課長	今 福 保 幸
地域教育課長	市 場 結 実
文化財課長	高 田 勘 治
教務課統括係長	井 本 正 美
教務課主任	林 由梨奈

4 議事の概要

別 紙

午前9時 開会

【第1 会議録署名委員の指名】

○扇教育長

委員全員出席です。ただいまから令和3年度第8回春日市教育委員会議定例会を始めます。

始めに、会議録署名委員の指名を行います。染原委員を指名いたします。

【第2 議案】

(1) 第17号議案 春日市通級指導教室設置要綱の一部を改正する告示の制定について

○扇教育長

次に、議案の付議事項です。

第17号議案 春日市通級指導教室設置要綱の一部を改正する告示の制定について、事務局から説明をお願いいたします。

○今福学校教育課長

第17号議案 春日市通級指導教室設置要綱の一部を改正する告示の制定についてご説明いたします。

提案理由につきましては、通級指導教室の指導体制に関し、春日市いきいきプラザ内にある春日市通級指導教室における指導のみの体制を改め、自校における指導又は巡回による指導を基本とする体制に変更するため、同教室の設置目的など、春日市通級指導教室設置要綱の規定の整備をする必要がある、というものでございます。

先月の定例会で報告しましたように、来年度から、現在いきいきプラザ内の春日市通級指導教室だけで行っている通級指導の体制を改め、学校の教室を確保できない等の理由がある小学校3校以外の小中学校は、通級指導を自校・巡回方式により行うようにしたいと考えています。

新旧対照表により、条ごとに改正内容を説明いたします。まず、春日市通級指導教室の目的と設置を規定する第1条です。ただいま説明しましたように、中学校は、全て、自校における指導又は巡回による指導の体制へ変更したいと考えていますので、新旧対照表の左側、現行の規定中の下線部分、中学校に関係するところである「又は生徒」、「及び春日市立春日中学校分室」を削ります。また、小学校においても、自校・巡回方式が基本となり、一部がいきいきプラザの春日市通級指導教室を利用することとなるため、所要の改正

を行っています。具体的には、表の右側、改正後の第1条の2行目から4行目の下線部分になります。下線部の中の「同条の特別の教育課程」というのは通級指導を意味しています。小学校の児童のうち、教室がないなどの理由で所属の学校で通級指導を受けることができない児童と、防音室など特別の環境が必要なため、在籍する学校の環境では通級指導が困難な児童をいきいきプラザの春日市通級指導教室の指導対象とするものです。

次に、第3条です。第1条と同じ理由から、第1号の規定中、中学校に関係するところ、「又は生徒」を削っています。また、第1号のウの規定中、「注意欠陥他動性障害」の文言を現在使用されている用語である「注意欠陥多動症」に改めています。

次に、第4条です。通級指導の体制が自校・巡回方式を基本とするため、春日市通級指導教室運営委員会の定例的な開催は、今後必要がなくなると考えられるため、必要に応じて開催する形式に改めるものです。

最後に、第5条です。第1条と同じ理由で、中学校に関係するところ、「及び中学校」を削っています。

なお、施行日については、通級指導教室の指導体制を変更する日である、令和4年4月1日としています。説明は以上です。

○扇教育長

ただいま説明のありました議案について審議をいたします。質疑はございますか。

○安本委員

第3条の「注意欠陥多動性障害」を「注意欠陥多動症」に改正した理由は、精神医学的に言葉が変更となったからでしょうか。

○今福学校教育課長

注意欠陥多動症という用語ですが、こちらはアメリカ精神医学会が出している精神障害の診断と統計マニュアル第5版（DSM-5）に基づくものでございます。DSM-5ではアスペルガーや自閉症という言葉は使わずに、自閉症スペクトラム症という様な言い方をしておりますし、それに準じたものに改めているものでございます。

○安本委員

第4条の運営委員会について、「設置し、協議する」を「設置することができる」と変更されていますが、これまでは通常で設置されていたものを、必要がある時に設置するという努力義務に変えるということでしょうか。

○今福学校教育課長

現在、運営委員会については年に数回、定例的に開催しております。しかし、そこまで

の頻度が必要なくなりますので、常設するのではなく必要に応じて関係するメンバーを集めて、委員会を行うよう改めております。検討すべき事項がなければ、集まっても時間をもったいないですので、実際に協議・検討しなければならない事項が発生したときに開催したいと考えております。

○安本委員

開催に関しては任意であるけれども、委員会としては、委員は用意しておき、今まで年に数回やっていたものを必要な時に委員を招集する形に変更するということですね。

○今福学校教育課長

そのとおりです。

○安本委員

4条の「設置する」は、開催することができるという意味なのでしょうか。委員を決めたのであれば、委員会自体は設置してあるのではないのでしょうか。今まで年に数回開催していたものを、必要な時に1回1回開催をすると変更するということですよ。

○今福学校教育課長

設置してしまうと開催しなければなりません。ですので、設置自体を開催に併せて行うという形に変更いたします。

○安本委員

それは行政上の言葉の意味ですか。

○今福学校教育課長

はい、そうです。

○染原委員

注意欠陥多動症について、ADHDはDSM-5に記載されている言葉で、Attention Deficit Hyperactivity Disorderの略語なのですが、日本語としては、注意欠如となっています。以前は注意欠陥としていたのですが、最近は使わなくなってきていますので、文言の修正の検討をしていただけたらと思います。また、多動性障害とするのか多動症とするのか、文言の整理をお願いします。

○今福学校教育課長

かしこまりました。

○扇教育長

よろしいでしょうか。それでは第17号議案 春日市通級指導教室設置要綱の一部を改正する告示の制定について、ただいまより採決に入ります。賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○扇教育長

全員賛成でございます。よって、第17号議案 春日市通級指導教室設置要綱の一部を改正する告示の制定について、全員賛成をもって可決いたしました。

(2) 第18号議案 社会教育委員の解嘱について

○扇教育長

次に、第18号議案 社会教育委員の解嘱について、でございますが、この議案は、内容上、「人事に関する事項」に該当しますので、春日市教育委員会会議公開規則第4条の規定に基づき、非公開としたいと思います。

それでは、委員の皆様にお諮りいたします。第18号議案を非公開とすることについて、賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○扇教育長

全員賛成により第18号議案は非公開とします。

- ・ 第18号議案は、非公開。
- ・ 審議の結果、第18号議案は、全員賛成により可決。

(3) 第19号議案 令和4年度教育費予算に関する意見の申出について

○扇教育長

次に、第19号議案、令和4年度教育費予算に関する意見の申出についてでございますが、この議案は、内容上、議会の議決を経るべき議案の原案に関する事項に該当しますので、春日市教育委員会会議公開規則第4条の規定に基づき、非公開としたいと思います。

それでは、委員の皆様にお諮りいたします。第19号議案を非公開とすることについて、賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○扇教育長

全員賛成により第19号議案は非公開とします。

- ・ 第19号議案は、非公開。
- ・ 審議の結果、第19号議案は、全員賛成により可決。

【第3 報告事項】

(1) 教育長報告

○扇教育長

教育長報告でございます。3点ご報告いたします。

まず始めに小学校の修学旅行についてですが、11月17日の春日原小学校をもって、春日市内全12校無事に出発・終了いたしております。特段、事故等の報告も受けておりません。11校の修学旅行出発式に参加いたしました。昨年度以上に保護者の見送りが多かったように思います。各校長はそれぞれ良い話をしておりましたが、印象に残った話としては、5年生で行く意味と6年生で行く意味の違いを子どもに分かりやすく話している校長がいらっしゃって、非常に説得力がありました。子ども達も落ち着いており、係りの子ども達が発表した後や役目を終わった後は必ず拍手が起こっていました。是非、あのような姿勢を持って中学校に進学して欲しいと思った次第でございます。

また、小学校の体育会・体育発表会が、11月27日の春日小学校・日の出小学校をもって、春日市内全12校終了予定でございます。体育会・体育発表会は、ほとんどの学校が午前中で終わっているようです。見届けたいと思っております。

3点目でございます。資料をお配りしておりますが、先日、令和3年度市町村教育委員会オンライン協議会に参加いたしました。内容としましては、まず、文部科学省初等中等教育企画長から今後の文部科学省行政の話がありました。

資料の2ページに2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿が記載されております。全ての子ども達の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現ということで、子ども達の学び・教職員の姿・子どもの学びや教職員を支える環境という面で、簡潔にまとめてありました。子どもの学びの姿について、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていくことで、主体的・対話的で深い学びに繋が

ってまいります。そして、教職員はこの実現に向けて授業改善に努めていくものとする
てまいります。子どもの資質能力の育成ということで、2030年くらいになると、非常に地球
の環境自体が厳しい状態になる可能性があるそうです。その状況の中で、特定の人間によ
るリードではなく、多様化というキーワードで一人一人取り残すことなく、皆で協働して
困難に立ち向かっていくことができるように育成していくことが求められています。

4ページには、それぞれ幼児段階・義務教育段階・高等教育段階・特別支援教育それぞ
れの目指すところを明記してありますので、後程ご覧いただければと思います。

5ページでございますが、全ての子ども達の可能性を引き出す、「個別最適な学び」と
「協働的な学び」の実現のための改革に向けた6つの方向性ということで、履修主義と修
得主義とを適切に組み合わせていくというものが挙げられています。履修主義というもの
は、今までの年齢主義・学年主義といいますか、出席日数に不足がなければ理解・成績に
関わらず進級を認めるものでございます。一方、修得主義というものは、厳密に行おうと
すると、学習内容の一定の修得ができていなければ進級を認めない、いわゆる落第してし
まうものでございます。こちらは、今の時代に馴染まないということで、修得主義と履修
主義を組み合わせた教育が今後求められるということが記載してあります。こちらが実施
されると、恐らく学年終わり頃に充分修得できていない児童生徒については個別の学習を
きちんと保障していくような制度になるのではないかと考えております。ICT環境の整
備については、来年・再来年からデジタル教科書教材の普及促進というものが出てまいり
ますので、これについても深く研究をしておかないと取り残される可能性があるなど考え
ております。

21ページには、教職員の勤務実態の現状ということで、前回の平成18年度調査と10年後
である平成28年度調査を見比べた時に、小中共に勤務時間が長くなってきているとありま
す。では、増加した理由は何かと考えた時に、若手教師が増加したことに伴い支援・指導
が増加したことや総授業時間数の増加、中学校の部活動時間の増加が要因として挙げられ
ています。総授業時数は、学力低下に対する学力向上対策ということで、小学校で1.3コ
マ、中学校で1コマ授業実数が増加しており、それに伴う準備等も増加しているようです。
中学校における部活動時間についても、平日7分、土日で1時間3分増加しております。
おそらくこの部分が、中学校が小学校より圧倒的に超過勤務が多い原因なのではないかと
思われます。部活動の時間については、春日市でも改善していく必要がございます。部活
動の長時間化に関して問題に感じていることがございまして、社会体育団体等に夜間一般
開放した際、グラウンドにあるナイター施設を利用されるのですが、その施設を学校の部
活動をするために使用しているという学校があるようでございます。これについては11月
で終了し、今後は認められない旨を各学校に通知しております。超過勤務時間は45時間内
で収めるようにするというものが県の方針でございまして、春日市内6校ある中学校の内
1校は1ヶ月間の超過実数が53時間となっておりますが、学校によっては超過勤務時間が
155時間や130時間といった学校もございます。中には学校を居場所としている教員もいる

ようでございますので、教職員の意識の改革を併せて行っていく必要があると考えております。

23ページには、文部科学省・教育委員会・学校それぞれが、働き方改革に向けて取り組む事項が提示されております。学校についても、削減する業務を洗い出す機会を設定することという項目がございます。校長が自らの権限と責任で、学校の伝統として続けているが、必ずしも適切といえない又は本来は家庭や地域社会が担うべき業務を大胆に削減していくことが重要であるとあります。昔からしているものを問い直す、その例として、勝利至上主義の早朝練習の指導や運動会等の過剰な準備が挙げられています。

24ページでございますが、学校や教育委員会からの国への要望を踏まえた取組の推進が記載されております。教職員定数の改善、教科担任制の推進や支援スタッフの配置支援等についての対応方針が明らかにされております。このように、文部科学省行政の方針が明らかにされており、関心を持って聴講しておりました。

その後、鎌倉女子大学の准教授の講演がございまして、学校教育におけるインクルーシブ教育の進め方と題してお話いただきました。インクルーシブ教育とは、平均的な児童生徒の周りにいる子ども達、例えば不登校の子どもや発達に障がいや特性をもった子ども等を全て受け入れて共に学習を行っていくこととございます。以前は、普通教育と特別支援教育を別個で考えておりました。今の段階は、特別支援教育から通常学級に入ってくる子どもに支援員をつけておりますが、インクルーシブ教育の考え方はこれではございません。必要な時に必要な箇所だけ支援をすることとございます。例えば、車椅子の子どもが教室で授業を受けている時に、支援員は必要ございませんが、他の教室に行く時等に階段の上り下りに必要となります。ですから、全ての対応を時系列に並べ臨機応変に対応していき、一人も取り残さないことが肝要となります。その根底にあるものが、道徳教育です。特別教科の道徳では、自分自身との関わり・他の人との関わり・集団や社会との関わり・地球環境を含めた生命自然との関わりという視点で学習を受けます。問題は、各教科等における道徳教育、ここをしっかりと教職員は意識して欲しいと思います。各教科の中に道徳はあるのだと意識した教育を行えば、今からの厳しい状況を全ての人間で対応していくことができる、というような内容で熱弁をふるっておられ、非常に参考になりました。

その後分科会がありまして、5名で不登校を題に協議をいたしました。その中の1市は特別支援教育に力を入れており不登校生が殆どいないとのことでしたが、最近の情勢もあり少しずつ増えてきているということでした。他の市も不登校生はいるようですが、教育支援センターの段階でフォローが殆どできているそうです。春日市も教育支援センターでフォローはしておりますが、そこで支えきれずフリースクールを利用している子どもや引きこもり子どもがいる現状でございます。意見交換をしながら、春日市が一番厳しい状態であると感じました。また、地域や少年スポーツ団等で、子ども達の活躍の場を設けることに力を入れている市もあるようでした。春日市の対策については、マイスクールが全日制・I部制・II部制・在宅制というように複数体制あることに他市は驚かれていました。

全日制しかなければ、全日制に行くことができない子どもは利用することができなくなるため、段階的に踏んでいくことができる制度はすごいと感心されていました。オンラインでも率直に意見を言い合うことができ、とても有意義な協議会でありました。

報告は以上です。ただいま報告しました事についてご質問はございますか。

○谷委員

中学校の部活の件で、5年後には部活は外部発注にする予定だということを知ったのですが、春日市もそのようになるのでしょうか。

○今福学校教育課長

令和5年度から段階的な地域移行を目指すというのが国の方針でございます。現在、国が実証実験を行っておりまして、福岡県内でも1市2町が参加しております。検証結果を見てしっかり対応していきたいと思っております。

○谷委員

基本にあるのは働き方改革だと思うのですが、部活動の地域移行をしなければならないと決まったのであれば、それに向けた対策等を早く取ることも必要ではないでしょうか。他市の動行を見てとなると、勤務時間の改善にならないという議論をし続けることになるのではないかと思います。地域移行の件でよく話題になる部活が野球部とかサッカー部だと思うのですが、先日は吹奏楽部のことが話題となっていました。文化系の部活もとなると、全ての部活を地域に移行することになるのでしょうか。

○今福学校教育課長

部活動の地域移行は土日を想定していると聞いております。平日は、どこからどこまでが学校で、どこからどこまでが地域という線引きが難しく、区別がつかないのではないかと議論がございます。まだ明確な指針は示されておられません。今、はっきりとしている事は、土日を地域に移行して、学校があっている時間は教員が指導するというところでございます。そこを含めた今年度の実証実験だと思っております。

○谷委員

どこを基準にして市の体制を実施するかを考えなければ、どうしてもどこかで歪が出てくるのではないかと思います。部活に関しては中体連を目標として、それに向かって部活を頑張っている生徒もいっぱいいると思います。勉強も大切ですが、勉強以外もしっかり教えていくことが教育だと思います。

○今福学校教育課長

大会の取扱いについても、どのように行っていくのか、どこまで対応していくのかということが議題に上がっています。また、働き方改革だけではなく、人口が減少していている地域は一つの学校では部活動がなかなか成り立ちにくくなっているため、複数の学校が合同で部活動をできないかというものが、一つ議論にあがっています。

○谷委員

人口減少は春日市にも当てはまっているのですか。

○今福学校教育課長

春日市には該当しておりませんが、全国的に人口が減少している地域もございますので、そこを含めて国で議論がされております。人口減少に伴い部活動の継続が難しくなっている地域もございますので、国が効果ある部活動の改革の中で、地域移行のひとつの考え方として検討しているとのことです。福岡県内でも、そちら方面の実証実験に参加している自治体がございます。

○扇教育長

福岡都市圏や周辺部については、子どもの数は増加しておりますが、それ以外は急激に子どもの数が減少している現状でございます。そういう日本の大きな流れが一つあります。春日市においても、学校の規模・教職員の数・生徒の数という要素から適切な部活動の数が出てこようかと思えます。実際、春日市内でも、ひとつの部が成り立たなくて廃部になっております。ですから、社会体育も含めたその辺の住み分けが提示されてくるのではなかろうかと思えます。いずれにしても、令和5年度に大きな変革があるのではないかと予想されますので、情報収集はしっかりしていきたいと思っております。

○染原委員

部活動は段階的に時間を少なくして、適切な勤務時間内で終わるようにしていこうという方針だと思うのですが、子ども達も先生も目標に向かって頑張っていくということが部活動の良さだと思います。その成果を横断幕で掲示していましたが、横断幕での掲示についても変化していくのか、これからの見通しを教えてください。

○扇教育長

横断幕を掲示する元々の発想は、高等学校が生徒を集めるための手段の一つとして、部活動の成果を披露していたものです。それを中学校が取り入れております。部活動というのは、興味関心をもった生徒がスポーツ等の楽しみを味わったり、大会で勝つことを目標としたり、参加理由は様々あると思えます。ところが、勝利至上主義になってしまうと、そこに理不尽な要求等の問題が発生する場合もございます。中学校の部活動は日本独特の

文化であり、参加した子ども達が、高校でも、大学でも、大人になっても生涯体育として追及していくことが理想の形だろうと思います。あるいは、そこから別の種目や競技にも関心が広がっていくことも良いかと思います。ただし、勝利至上主義によりあまりにも鍛え過ぎたため、燃え尽き症候群になって高校ではしないという生徒も存在します。そうではなくて、その生徒の生き方に非常に役に立つような、生きる力の育成に繋がる活動であることが教育活動としての部活動だと考えます。恐らく、その辺りの整理も令和5年度の部活動改革の中で出てくるのでなかろうかと思います。

○谷委員

個人的な意見になりますが、スポーツは勝つという目標のために努力をするものだと思います。足が遅くて学校に行くのが嫌だという人もいるでしょうが、足が速くて学校で頑張っている子もいます。多様性があり、様々なことがトータルされた人間形成ができていくと思いますので、勉強だけでできればいいということではないのではないのでしょうか。

○扇教育長

その通りでございます。ただし、横断幕の掲示となると部活動で成果を出せた生徒のみが対象となってしまいますので、勉強を頑張った生徒も同様に評価する必要がございます。また、必ず終業式等の折に皆の前で表彰をしていますし、必ずしも横断幕を掲示する必要はないのではないかと個人的には思います。

(2) 教育委員報告 なし

(3) 事務局報告

事務局報告 ア 各種審議会等の実施報告について

○扇教育長

次に事務局報告です。ア 各種審議会等の実施報告について、事務局から報告をお願いいたします。

○高田文化財課長

事務局報告、各種審議会等の実施報告につきまして、文化財から報告いたします。文化財専門委員会令和3年度第1回歴史部会を開催いたしました。部会の委員2名中2名にご出席いただきまして、記載しております日時会場で開催いたしております。議題は記載し

ております、市指定候補物件2件について、12月17日開催予定の文化財専門会議に先立ちこの歴史部会の委員2名から御意見をいただいたものです。どちらの物件も平成13年度に同一の所有者の方から春日市に寄贈されたもので、それ以降調査研究を進めまして今回指定候補物件という形で専門委員会に諮ることとなりました。この審議結果を受けまして、今後は12月17日の文化財専門委員会の審議を経て市指定候補との御意見をいただきましたら、来年2月に春日市文化財保護条例に基づきまして、教育委員会議の議題として市指定についてのご審議をいただくこととなります。各種審議会等の実施報告の説明は以上でございます。

○扇教育長

ただいま説明のありました報告について、ご質問はございませんか。

○安本委員

春日市と豊臣秀吉は何か関係があるのでしょうか。

○高田文化財課長

この文書は近世のものでして、豊臣秀吉の軍が九州平定後に那珂郡に陣を構えた際に、奉行たちが出兵してきた兵士に乱暴狼藉を禁止し、住民に迷惑をかけないように命じたものです。

○安本委員

レプリカではなく本物があるのでしょうか。また、それは市民も見ることができるのでしょうか。

○高田文化財課長

市指定候補物件は、正に原本を市の指定候補にしようとしているところでございます。今は収蔵庫で保管しておりますが、市の指定という事になりましたら、企画展という形で市民の皆様に見ていただける機会を設けようと考えております。

市の有形文化財指定になりましたら、来年2月の教育委員会議でご審議いただくこととなりますので、またその時に詳しく説明いたします。

(4) 主要行事報告

○扇教育長

主要行事報告について、報告がありましたらお願いします。

○高田文化財課長

主要行事報告について、文化財課から報告でございます。12月1日に予定しております春日北小学校地中レーダー探索の資料ということで、奴国かわらばんをお配りしておりますのでご覧ください。奴国の王墓は発見されているのですが、奴国王の居館・王宮が未だに発見されておらず、春日北小学校グラウンドの地下にあるのではないかと以前から言われております。現在、調査技術が発達しまして、私どもも一昨年度から行っております地中レーダー探査を、春日北小学校の御協力で小学校6年生の児童と一緒に実施することとなりましたのでお知らせをいたします。奴国かわらばんの一号から四号をお配りしておりますので、後程ご覧ください。文化財からは以上です。

○扇教育長

ただいま説明のありました報告について、ご質問はございませんか。
私から1点、奴国かわらばんは以前からありましたか。

○高田文化財課長

昨年から発行しております。岡本の自治会の協力いただいて、岡本には自治会回覧をしております。須玖北・須玖南・弥生地区においては公民館の掲示又は配置をお願いしております。

○扇教育長

春日市全市に配付は行わないのでしょうか。

○高田文化財課長

まずは地元の方々に知っていただいて、それから例えばHPで閲覧するようには考えております。地元の皆様にまずは知っていただく機会をとということで発行しております。

○谷委員

何か発見されたのでしょうか。

○高田文化財課長

12月1日に地中レーダー探査を行いますので、まだ何かが発見されたということではございません。ただ、発掘調査技師によると、溝みたいなのが発見されており弥生時代としては4M幅くらいあるので、王宮かどうかは不明ですが何か大事なものがこの溝の内側にあったのではないかという説明でした。奴国かわらばん第4号の裏面に、春日北小学校の地下に残る須玖坂本B遺跡ということでこれまでの発掘調査の成果を掲載しております

のでご覧ください。

レーダー探査で何か反応があれば、グラウンドの調査をさせていただいて、その時には子ども達に発掘体験等をしてもらえたらなと考えております。春日北小学校には、今後も協力を求めていますと思います。

○魚屋委員

12月1日は、児童だけではなくて、周辺の方々等も見学ができるのでしょうか。

○高田文化財課長

春日北小学校からは、コロナウイルス感染症もございますので、あまりにも多くの方に来ていただくのは控えてほしいとのご意見がございました。ただ、かわらばんを見て見学に来られる方の対応はしっかりいたしたいと思っております。

○魚屋委員

グラウンド全体を探査するのでしょうか。

○高田文化財課長

はい、グラウンド全体を行います。子ども達は2限目・3限目のみ体験をしてもらい、後は私達がレーダー機を押ししたり引いたりして探査を行う予定です。

○魚屋委員

自動ではなくて、手動で押すのですね。

○高田文化財課長

かわらばんの2号に地中レーダー探査での調査の様子を掲載しておりますのでご覧いただければと思います。結構重量がございますので、前から引く者と後ろから押す者として、人力で行います。奴国の丘歴史公園で今年の夏にレーダー探査を行いました。その時は公園に遊びに来ていた子ども達に引いてもらったりもいたしました。お時間がありましたらおこしいただければと思います。

【第5 調整事項】

(1) 12月定例教育委員会議の日程について

令和3年12月22日(水) 午前9時 決定

(2) 1月定例教育委員会議の日程について

令和4年1月21日(金) 午前9時 予定

(3) 1月教育委員懇談会の日程について

令和4年1月21日(金) 午前10時 決定

午前10時35分 閉会